

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000277	事業の開始年月日	平成22年4月1日	
		指定年月日	平成22年4月1日	
法人名	株式会社コムロード			
事業所名	もえぎケアセンター矢部			
所在地	(〒244-0002)			
	横浜市戸塚区矢部町1252-6			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25 名	
		通い定員	15 名	
定員等		宿泊定員	5 名	
		定員計	名	
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月31日	
ユニット数	ユニット			

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>《サービス》 通い、宿泊、訪問を柔軟に組み合わせ切れ目ないサービス提供を心掛けています。認知症で一人暮らしの方々も訪問・食事提供・通院送迎など独自のサービスを工夫し可能な限り住み慣れた自宅、地域で暮らし続ける事が出来るよう支援しています。</p> <p>《設備》 日当たりの良い広いリビングを中心としてゆったりと過ごすことができる設計となっています。広いトイレを3か所配し、風呂上がりをゆったり過ごせる広い脱衣所も特徴です。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年2月22日	評価機関 評価決定日	平成25年4月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇会社名の「コムロード」は仲間とか同志の意図があり、基本理念としている「ご利用者と一体感のある介護サービスを創造する」ところから名づけ、「仲間の輪を広げ」地域に密着したサービスの提供を目指している。 ◇利用者は比較的介護度が低く、日常生活行動が職員と一緒にできるので、職員は本人の能力に応じた活動ができるような、そして、利用者のペースを守った支援を心がけている。 ◇隣接して高齢者グループホーム・戸塚生活者支援センター（障がい者）・視覚障がい者グループホームと、日常的に連携をとり避難訓練やイベントを合同で行い、地域の住民に理解を広めている。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇季節感の演出として、利用者の作品や季節の花を飾っている。 ◇玄関周りに利用者の庭から移植した草花を植えて、楽しんでいる。 ◇食材は業者委託しているが、調理は職員が交代で行い、利用者に合わせて味付けや当日の体調に合わせた支援をしている。 ◇泊まりの利用者は安心して過せるように、在宅での生活状況に応じて洋室と和室の選択ができる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	もえぎケアセンター矢部

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

もえぎケアセンター矢部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの特徴を理解し理念を共有している。地域の方に広く知っていただけるよう努力している。	・基本理念である「ご利用者と一体感ある介護サービスを創造する」の標語を玄関と事務所に掲げている。 ・毎朝のミーティング時に話し合い、職員間の共有と実践できているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年近隣4施設合同の「矢部福祉まつり」を開催し多くの地域住民に楽しんでいただけた。また4施設で合同避難訓練を行った。	・町内会に加入している。 ・職員が近くの公園の清掃をして、地域の人と交流をしている。 ・隣接の高齢者グループホーム・障害者生活支援センター・視覚障害者グループホームと協働して、地域のイベントなどに参加協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られた方や電話問い合わせにはには認知症のケア方法のアドバイスをしている。サービスの受け入れなども親身なって支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見はその場で話し合ったり次回の会議で報告できるよう取り組みもサービスの向上に努めている。	・運営推進会議は4月、8月、12月に開催している。 ・参加者は利用者家族、地域住民、地域ケアプラザ職員などとなっている。 ・パンフレットが分かり難いと住民の意見から、パンフレットが見直された。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小規模多機能連絡会への参加等により市・区の担当職員との密接な連携を図っている。	・サービス計画書の変更や利用者の介護認定更新等で毎月、高齢福祉課の担当者を訪問し、相談している。 ・横浜市の小規模多機能型居宅介護連絡会に参加して、情報を共有している。	

もえぎケアセンター矢部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	表玄関は施錠せずフロアは開放し自由に移動できるようにしている。身体拘束はしない介護をスタッフ全員で実践している。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束防止の事業所の方針を掲示している。 ・「拘束ゼロの手引き」をマニュアルにしている。 ・玄関は日中施錠していない。 	・研修は職員間の共有や、質の向上に向けて普段の行動のチェックをする機会になると考えられます。研修の検討が期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時やトイレ介助の際などに身体状況をよく観察し原因を調べるなど防止に努めている。また虐待はあってはならないこととスタッフ全員が認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については現在必要とする利用者はいないが今後活用できるよう学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分に説明し体験利用していただく等納得いただいてから締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族代表の意見や要望、連絡帳等に記載された内容は運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人からの要望や意見は送迎時に聞いたり、家族からは訪問送迎時や連絡帳に記載してもらい、内容についてはスタッフミーティングで話し合い介護に反映させている。 ・家族からの要望で、風呂の入り方(身体の洗い方)の見直しが行なわれた。 	

もえぎケアセンター矢部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所内定期ミーティング時に意見・提案する機会がある。また毎週の本社執行会議で管理者が経営者に直接意見を伝えることができる。	・代表者と正職員は年1回、面談があり直接意見や提案を伝えている。 ・他の職員は管理者がスタッフミーティングなどで意見を聞いて、業務に反映している。 ・職員の意見から厨房にエアコンが設置された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・能力・勤務状況(努力・実績等)の査定により 昇給・賞与への反映、個人面談による動機付け ・準社員(制度は既設)、正社員登用の積極化等を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最重要課題と位置づけており ①社内(社長)研修:介護スタッフ(年2回)正社員(年3回)に実施 ②社外研修:資格取得奨励制度、研修奨励制度(期間限定)を設定 ③OJT:管理者(執行会議)、職員(スタッフミーティング)他		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市の小規模多機能事業者連絡会や複数事業者連携事業の研修に、管理者・スタッフが参加し同業者と交流や意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いをしっかりと聞き適切に対処することによって安心感につながり信頼関係ができる第一歩と考えて努力している。		

もえぎケアセンター矢部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の生活の中で困っていることや必要とされていることをしっかりと聞き受け止めており、御家族からはきちんとした評価や信頼をいただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が「その時」必要としているサービスを見極め臨機応変に最適なサービスで対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	もえぎの理念・指針に「ご利用者と一体感ある介護サービスを創造する」と掲げてあり、日常的にレクリエーションや季節ごとの行事などをご利用者と共に楽しみ、時に教えられ支えあう時間を過ごしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との信頼関係を大切にしている。御家族の思いを支えられるように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アンケート調査をして要望のある方には馴染みの場所に出向く支援などを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・外出希望アンケートを実施した。 ・地域の夏祭りに家族と参加している。 ・通いの利用者で毎日行きつけの商店に、職員と買い物に行っている。 ・アンケートから利用者の希望で大船のフラワーセンターに行く計画がある。 	

もえぎケアセンター矢部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誰とでも関わりを持てる環境を作り人との関わりや話ができるように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡をとったり面会に行くなど関係が終わらないように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や家族の思いを把握・考慮し、それに沿った支援をするよう心がけている。。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人からは送迎時や入浴介助時に思いや希望を聞いている。 ・生活歴を本人や家族から聞いて、暮らし方の情報を得、職員ミーティングで話し合い、支援に結び付けている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時のアセスメントや家族の話、さらにフェイスシートなどからこれまでの経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・家族との情報交換を重ね把握している。		

もえぎケアセンター矢部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人経過記録に日々気づいたことを記入し、より良い介護計画を作成している。	・各利用者ごとの担当者が中心となり、本人・家族・ケアスタッフなどと話し合っ、介護計画書を作成している。 ・6ヵ月ごとの介護計画作成時に、担当者が家族に「要望書」の提出を依頼し、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングなどで個別のケアカンファレンスに基づきスタッフ同士情報を交換し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の年齢、生活や生活環境の変化に応じ洗濯・買い物・食事作り・通院送迎等状況に応じたサービスを柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣交番にパトロール強化を依頼し必要に応じ民生委員に関わってもらい生活を支えている。近隣の方には行事にお誘いしたり交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医に受診できるよう通院送迎など支援している。また提携医にも家族と相談の上受診できるよう支援している。提携医ではインフルエンザ予防接種を行ったり発熱など急変時に受診できる体制がある。	・本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。 ・家族の同行が難しい場合は職員が付き添い、受診に立会い、家族に報告している。 ・週1回、看護師が来て健康管理をしている。	

もえぎケアセンター矢部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での変化観察や入浴時等の身体観察を行い看護職員に伝え相談しながら手当や受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の本人や家族の不安や心配を和らげ早期退院に向け主治医やソーシャルワーカーと話し合うなど支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会社の看取りの指針に基づき家族に十分説明し支援できるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・1月に社長研修があった。 ・利用時に、事業所の方針を本人、家族に説明している。 ・かかりつけ医・家族と話し合い本人の意向も尊重した支援に取り組んでいる。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署と連携し講習や訓練を定期的に行い落ち着いて対応できるように取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携し夜間想定避難訓練を近隣の協力も得て毎年行うようにしている。近隣4施設合同で地震想定避難訓練を初めて行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定避難訓練を利用者、地域の人と一緒に3月実施する。 ・備蓄は3日分、準備している。 ・事業所として避難場所に近所の公園を決めているので、散歩のコースに入れて、場所をわかるようにしている。 ・消防署直通の緊急通報装置の設置をした。 	

もえぎケアセンター矢部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者様の意志を尊重して介護や言葉かけを行い信頼関係を築いている。	・職員は認知症の研修を通して、人格の尊重やプライバシーの確保について周知し、友達の馴れ合いの声掛けにならないようにしている。 ・利用者の体験談を傾聴し、戦争時の話には「大変でしたね」と労をねぎらい、敬意を持って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションをとり、ご本人の思いや希望を自由に表現してもらいそれをサポートしながら自己決定してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心地良くいられる場所でご自身のペースに合わせ思い思いの過ごし方をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣をさりげなく整容している。入浴後整髪・爪切りなどのお手伝いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや希望も考慮し旬の食材や季節のメニューを取り入れ楽しんで頂いている。食事中も和やかに会話しながらゆっくりと召し上がっていただいている。下準備や片づけなどをできる方には手伝っていただいている。	・職員は利用者一人ひとりの摂食能力に合わせ食事を作り、利用者と一緒に同じ物を食べ談笑している。下膳や片付けで自立を促している。 ・誕生日には本人の好みをメニューに取り入れ、日曜日は外食でラーメンを食べるなど食欲を高めている。	

もえぎケアセンター矢部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすさや栄養バランスを考えたメニュー作りをし、摂取量は一人ひとりの体調も考慮して決めている。水分は一定量摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。自分でできる方は見守り、できない方は介助したりうがいのみを行っていただくなど口腔内の清潔には十分気をつけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方は多いが時間での声掛けや、排泄パターンを把握し清潔を保つよう努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が気持ちよく排泄できるよう一時間ごとに休憩し、トイレに行くきっかけをつくり、自立を高めている。 ・失禁の場合はプライドに配慮し「お手伝いに来てもらえますか」と何気ない声かけで誘導している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、バランス、水分量などできる限りの予防に取り組んでいる。ご家族からの情報と共に排便状況を把握するよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて湯温・湯量も調整し快適に感じていただけるよう努めている。季節には菖蒲湯、ゆず湯を楽しんで頂いている。ゆっくり入りたい方には順番の工夫もしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は一日4、5人が利用、午前は足し湯にし、午後はお湯を入れ替え、気分良く入浴ができるようにしている。 ・入浴拒否の利用者の場合は課題を捉えて不安を取り除き、入浴の良さを伝え、入浴につなげている。 	

もえぎケアセンター矢部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの状態をスタッフ全員が把握し休息しやすい環境を整えるとともに、状況に応じて休息していただくよう声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理票を一冊のファイルにまとめ服薬内容の把握に努めている。病状や服薬内容の変化は常に家族と確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの生活歴や趣味を把握しそれを活かせるお手伝いをお願いしたりレクリエーションを工夫し、声を出したり体を動かしたり日によって考えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣やお花見など季節のの外出行事を実施している。また本人の希望を把握し外出の支援をしている。天気の良い日は近隣の公園やドライブ等も楽しんでいる。	・日常的に20～30分間は近場の公園まで外出している。玄関前でくつろいだり、時にはマーケットまで買い物に出かけることもある。 ・利用者の会話やアンケートから神社や公園の紅葉、花見に出かけるなど遠方への外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が支援しているため現在は希望はないが外出でお金を使う場面では支払をさりげなく見守り困ることのないよう支援している。		

もえぎケアセンター矢部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどの方は家族の支援で行っているが独居の方には必要事項を含めやり取りができる支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光・音・におい・気温には常に気をつけている。季節に合わせた飾り付けや季節の歌・ゲームで四季を感じていただき居心地良い環境づくりを心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・共有部分は畳やソファで家庭の環境と同じような雰囲気を出し、いつでもくつろげるようにしている。 ・ひな壇や手作り品、行事の写真で季節感や生活感を出している。 ・採光やスペースを十分に確保しているため、安楽に過ごしている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングにソファコーナーやテレビコーナーを設け見守りをしながらも自分の好きな環境にいられる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊者の生活スタイルに合わせた寝具を選んでもらい宿泊室は殺風景にならないように季節に合わせた飾り付けをしている。夜間に起きる習慣のある利用者は夜勤職員が見守りできるよう配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・泊まりの部屋は利用者の希望で部屋のスタイルが選べるよう和室と洋室を用意している。 ・部屋にはベットとロッカーを設置、居心地よくするためにカーテンや布団の色に配慮している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全のための手すりを設置、また矢印や案内板で「トイレ」「風呂」の表示をし利用場所や部屋を分かりやすくすることによりご自身の移動をサポートしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 もえぎケアセンター矢部

作成日 平成25年5月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束防止の方針やマニュアルはあるが職員の研修がない	研修することにより実践に向け支援に取り組んでいく	定期的に全職員が研修に参加できるように支援する	12ヵ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。